

嵐箱粒剤(オリサストロビン粒剤)の育苗箱施用によるイネいもち病(葉いもち)および紋枯病の省力防除法

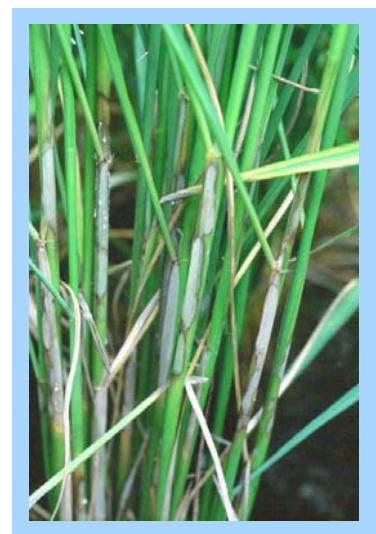
- ・一成分で、2つの病気を防除 (減農薬)
- ・近年問題となっている薬剤耐性菌にも有効
- ・もちろん、県内全域で使用できます



【いもち病(葉いもち)】



【紋枯病】



最も恐ろしい病気
〔コシヒカリ、ひとめぼれ→弱い〕
(減収・品質低下)

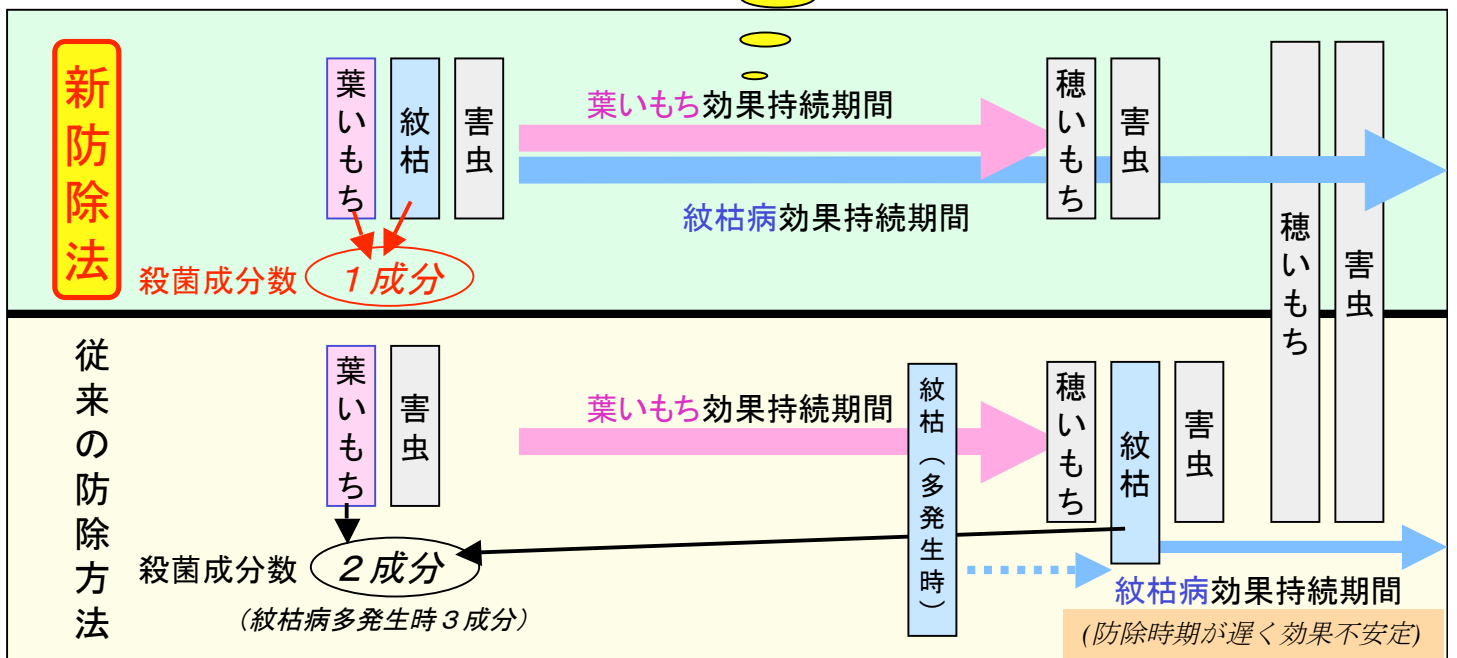
近年、被害増加
〔コシヒカリ→とくに弱い〕
(減収・倒伏)

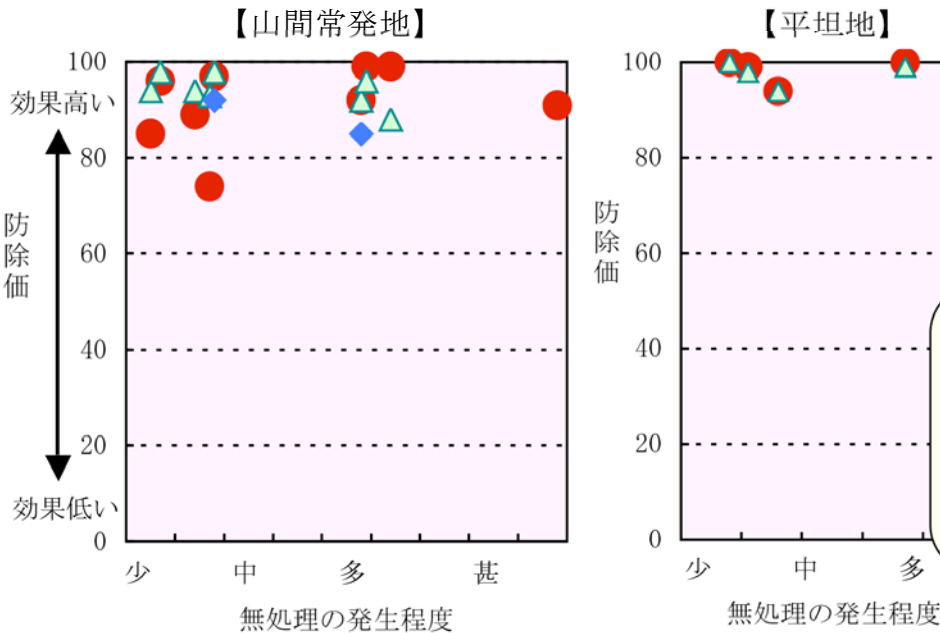
移植時
育苗箱施用

高い効果と長い効き目

穂ばらみ期
防除

穂揃い期
防除

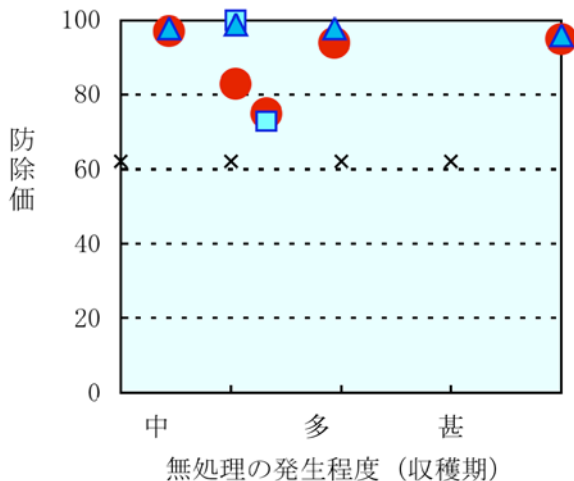




(いもち病試験の凡例)
 ●: 嵐プリンス箱粒剤10
 △: Dr.オリゼプリンス粒剤10
 ◆: ブイゲットプリンス粒剤10
 (移植当日、50g/箱)
 品種: 山間地: コシヒカリ
 平坦地: ひとめぼれ



葉いもちに対する嵐箱粒剤の防除効果 (2001～2006年)



(紋枯病試験の凡例)
 ●: 嵐プリンス箱粒剤10
 ▲: グレータム箱粒剤
 ■: リンバー箱粒剤
 (移植当日、50g/箱)
 ×: モンカッタ粉剤DL
 (穂ばらみ期、4kg/10a)
 品種: コシヒカリ



紋枯病に対する嵐箱粒剤の防除効果 (2001～2006年)



新薬剤の使用法

薬剤名	使用時期	使用量
嵐プリンス箱粒剤10	は種時(覆土前)～移植当日	50g/箱
嵐ダントツ箱粒剤	移植3日前～移植当日	50g/箱

- ・穂いもち防除については、従来どおりの予防防除を行いましょう。
- ・嵐プリンス箱粒剤10の使用法には床土混和処理もあります。
- ・嵐プリンス箱粒剤10等を使用しても、環境条件等によっては十分な防除効果が得られない場合がありますので、病害の発生状況に応じて追加防除等の適切な対応を行いましょう。
- ・薬剤耐性菌の発達を防ぐために、ストロビルリン系薬剤の使用は、年1回を基本としましょう。なお、ストロビルリン系薬剤には、嵐プリンス箱粒剤10、嵐ダントツ箱粒剤、嵐粒剤、オリブライト1キロ粒剤、イモチエース粒剤、イモチミン粒剤、アミスター8フロアブル等があります。

本書から転載複製する場合には
 必ず鳥取県農業試験場の許可を受けて下さい

(お問い合わせ先)
 鳥取県農業試験場 環境研究室
 電話 0857-53-0721